

I. 歓迎とレビュー

A. おはようございます。「おはようございます」。カルバリーチャペル岩国へようこそ。私たちの主であり、救い主であるイエス・キリストを礼拝するために集い、皆さんと一緒にここにいることができるとてもうれしい。

1. 新顔やネット配信者を歓迎する。抑止力

B. これ以上話を続ける前に、小学生の子どもたちを日曜学校の教室に解散させよう。

1. (2nd礼拝; 聖書英語のクラスは忘れずに解散する)

C. それ以外の人たちは、ヘブル人への手紙の勉強を続けることになる。

1. 先週、私たちは11章とヘブル人への信仰の章を終えた。そして、その章に列挙された男女の詳細や彼らが経験したことを考慮すれば、おそらくあと数週間はその章に留まることができただろうが、著者自身が認めているように、彼らの信仰生活において、また彼らの信仰生活を通して成し遂げられたすべてのことを語るには「時間が足りない」のである。

2. そして、ヘブル書の研究を進め、12章の冒頭へと進む。

3. ヘブル人への手紙11章を書いた理由はすべて、信仰生活を送った過去の男女の例を挙げるためであったことを忘れてはならない。

a. 著者は、迫害や困難を経験しながらも、耐え忍び、主に従い続ける必要性を説いていた。

b. 彼は、正しい者は信仰によって生きる、と書いた。聴衆は信仰によって義とされた人々であり、彼らは信仰によって生き続けなければならない、という勧めである。

4. イエスに対する私たちの信仰は、一度だけの決断に基づくものではない。

a. そうではなく、自分自身に死んでキリストのために生きるという日々の決断が必要なのだ。主の計画と目的を信頼し、視覚ではなく信仰によって歩み続けるのだ。

5. 12章に入ると、著者は彼らに忍耐をもってレースを走るよう挑もうとしている。

a. スポーツと競争という共通のテーマを用いて、著者は、ゴールに向かって邁進し続けること、レースをしっかりと完走すること、レースに向けて可能な限り最高の準備をすることを動機付けようとしている。

6. 今朝のテキストはヘブル人への手紙12章1節から4節までで、勉強のタイトルは「耐え忍んで走る」である。

7. 今朝、聖書を手元にお持ちで、まだお読みでない方は、ヘブル人への手紙12章をお読みいただきたい。

a. 今朝、聖書を持っていない人は、近くの椅子の下にある聖書を自由に借りてほしい。

8. ヘブル人への手紙12章を読んだら、もしよければ、神と神の聖なる御言葉に敬意を表して立ち上がっていただきたい。

a. もしあなたが他の訳の聖書を読んでいるのであれば、それはそれで構わない。

9. ヘブライ人への手紙の著者は、12章の1節で次のように手紙を続けている。(私たちの自由を守るために命をささげた人々のために、メモリアルデーの祈りを忘れないように。)

II. イントロダクション&アウトライン

A. 今朝、ここに持久系アスリートはいるだろうか? マラソンランナーはいるか? ウルトラマラソンランナーは?

1. 念のために言っておくと、私はマラソンランナーではない。走ることはそれほど好きではない。ランニングやランナーズハイを高く評価する人がいるのは知っているが、私はそうは思わない。

2. サイクリングは好きだし、以前にも何度かロングライドをしたことがある。

a. ジェイク・デュボアという、かつてこのカルバリーに来ていた一人の男を覚えている。彼と奥さんのマディソンは、ここ岩国でのシーズン中、大きな祝福を与えてくれた。

b. 何度か一緒に走ったことがあるが、彼はバイクの獣だった。でも、彼は体力に関しては、やることなすこと筋金入りだった。

c. フェイスブックやストラバで、彼が今年9月にグラインドストーン100というものに出場したのを見た。バージニア州のジョージ・ワシントン国有林の山々を走るレースだ。レース距離は112マイル、標高差は21,000フィートを超え、36時間弱で完走した。

d. グラインドストーン100は、ある日突然目覚めて出場するようなレースではない。多くの準備、多くのトレーニング、多くの規律が必要なものなのだ。

e. それはどんな耐久レースでも同じだ。ただ目覚めて、トレーニングや鍛錬を積み、ある種の計画を立てずに、今日マラソンを走りに行くとは言わない。

B. 今朝のテキストで、ヘブル人への手紙の著者は、彼の読者やこの時代の世界にとって非常に馴染み深いイメージをいくつか引用している。

1. 彼ら自身がアスリートでなかったとしても、多くはオリンピックに関連する競技やイベントに精通していた。

2. より人気のある競技のひとつが、今日でもオリンピック競技の一部となっている競歩である。現在では、100メートルの短距離走から42.2キロのマラソンまで、さまざまな競歩が行われている。

3. こうしたレースに出場するために、選手たちは何年も何年もトレーニングを重ねる。自分の肉体を鍛え、自分の能力を超えて、より新しい高みへと到達し、入賞を勝ち取るのだ。

C. 今日の文章で著者は、目の前のレースを耐え忍んで走るよう聴衆を励ましている。

1. クリスマス生活は短距離走ではなく、100メートルダッシュでもない。マラソンやウルトラマラソンのようなものだ。イエスに「はい」と答えた瞬間から始まるレースであり、「よくやった、忠実な僕よ、主の喜びに入れ」とイエスに言われるその日まで続くのだ。
2. そして、この信仰の耐久レースにおいて、著者は私たちがレースを成功させるために極めて重要なことをいくつか指摘している。
3. 本文では、忍耐をもって走ることに、すなわち信仰のレースを成功させるために必要な4つの異なる事柄について述べる。
4. そして、忍耐をもってレースを走ることの一部であるとして著者が最初に強調しているのは、ヘブル人への手紙11章と信仰の殿堂で書いたことと関係がある。1節の冒頭を見てみよう。

III. ヘブル12:1a; 学びを伴う

A. 節は「それゆえ」という言葉で始まるが、「それゆえ」は常に、今語られたことの結果として起こることを語る移行語として使われる。

1. そして今語られたのは、ヘブル人への手紙11章にある「信仰の殿堂」である。

B. それゆえ、私たちも、これほど大きな証人の雲に囲まれているのだから」と著者は書いている。11章に登場する、信仰によって生き、私たちの前を走った男女のことである。

C. 私たちの周りには、先にレースを走り、見事に完走した信仰の男女がいる。彼らの物語と彼らが学んだ教訓は、私たち自身の持久走のレースにおいて助けになる。

1. 職場の人間関係に悩んでいる。職場の人たちは、あなたを陥れようとしたり、失敗するように仕向けてきたりする。あなたを罪に誘おうとしていないか。ダニエルの人生を見て、彼が神への信仰のゆえに、人々が彼を陥れようとした同じような状況にどのように対処したかを見てみよう。
2. 不妊に悩み、神のタイミングを忍耐強く待っている。不妊に悩んだハンナとサラ、そしてエリザベトについて読んでみよう。
3. 子供を失う苦しみと闘う。デイビッドはその痛みを知っており、同じ経験をした人々に慰めをもたらす。
4. もしかしたら、あなたは結婚生活で、信頼や不誠実をめぐる問題に苦しんでいるかもしれない。預言者ホセアはそのすべてを知っており、赦し、人生を立て直す方法を教えてくれる。

5. もしかしたら、あなたは欲望や性的誘惑の問題に取り組んでいるかもしれない。ヨセフの生涯に目を向け、彼が人生で同じような問題にどう対処したかについて読んでみよう。

6. もしかしたら、あなたはうまくいっているかもしれないが、もっと自分の信仰について話す必要性を感じているかもしれない。エステルと、彼女が神の民に同調するために快適な生活をどのように放棄したかを見てみよう。

7. あるいは、人生があまり良くないのかもしれない。何度も何度も腹を殴られたように感じ、全世界が自分に敵対しているように感じるかもしれない。ヨブの生涯と彼が経験したこと、そして同じような状況を通して彼が学んだ教訓について読んでみよう。

8. 聖書には、私たちが先人たちから学ぶべき教訓が何度も何度も書かれている。

D. 使徒パウロはローマの信徒への手紙の中でこう書いている。"以前に書かれたことが何であれ、それは私たちの学びのために書かれたのです。"それは、聖書の忍耐と慰めによって、私たちが希望を持つためなのです" (ローマ15:4)。(ローマ15:4)。

1. 11章に登場する信仰の英雄たちの物語は、私たちが学ぶために書かれた。私たちが彼らを見習い、彼らが経験した教訓から学ぶために。

2. OT聖書は、信仰に関する驚くべき教訓で満たされている。多くの障害や試練に耐えながらも、信仰を貫き通した男女がいる。

a. ここカルバリーでは、日曜の朝は新約聖書の一節一節を教えるが、水曜の夜は旧約聖書の一節一節を教えるんだ。

- i. そして、水曜日の夜に来る人たちは、神が旧約聖書を通していかに力強く語っているかを証言してくれる。学ぶべき教訓がたくさんあり、これから起こることを暗示する絵や影がたくさんある。

b. 私は皆さんに、新約聖書だけでなく旧約聖書も学ぶことを勧めたい。パウロがローマの信徒への手紙に書いているように、先に書かれたことは、私たちが学ぶために書かれたのだ。

c. それは、私たち、あなたと私が、忍耐（この「忍耐」という言葉は、ギリシャ語では、今朝のテキストで忍耐と訳されているのと同じ言葉である。

d. 聖書が書かれたのは、私たちがそこから忍耐を持ち、耐え忍び、慰められ、信仰の希望に励まされることを学ぶためである。

e. 神の言葉に飛び込み、励まされよう。慰めと希望をもたらしてくれる。私たちが主と主のご計画に目を向けるとき、この御言葉があなたの忍耐力を養い、忍耐力を成長させてくれるだろう。

3. 私たちが聖書を通して読んでいるこれらの実話は、私たちがそこから学ぶために書かれたものである。

E. そして、忍耐をもって走れという命令を考えると、私たちがこのテキストで最初に注目するのは、忍耐をもって走るということは、先達から学ぶということである。

1. ヘブル人への手紙の読者にとって、それはOTの男女を指していた。
2. しかし、私たちにとっては、彼らだけでなく、新約聖書の各ページに記されているNTの英雄たちについても語られている。
3. それだけでなく、1世紀以来、主のために効果的にレースを走ってきた多くの信仰の兄弟姉妹についても語られている。歴史上の宣教師たち、そして信仰の巨人たち。
4. しかし、その中には今日でも私やあなたが知っている人々も含まれている。私たちのうちの何人が、レースで数周先を走っている兄弟姉妹のことを思い浮かべることができ、そこから学ぶことができるだろう。私たちが今経験していることを経験し、正しい方向へ導いてくれる人たちがいる。
5. 神は、あなたがある季節、ある状況、あるレッスンを通して、自分のレースで本番を迎えたばかりの若い兄弟姉妹とそのレッスンを分かち合い、彼らが耐え続け、自分の人生における神の上方への召命に向かって突き進むことができるように、ヒントや教訓を与えることができるよう、あなたを導いてくださったのだ。

F. だから、私たちがこの信仰のレースに備え、先人たちから信仰の教訓を学ばなければならない。冒頭の1節をもう一度見てほしい。

IV. ヘブル12:1b; ゆるみを伴う

A. 持久力競技のアスリートは、自分のペースを落としたり、レースの妨げになるような余分な体重を取り除く必要性を理解している。

1. オリンピックが始まった古代ギリシャの時代、選手たちのほとんどは裸で、あるいはできるだけ裸に近い状態で走っていた。
2. 今、アスリートはウェアを着ている。しかし、彼らは自分の専門が何であれ、それに特化したウェアを着ている。
 - a. そのトラックランナーたちは、体にフィットするスキンタイトのスーツを着用し、重量を抑えるために非常に薄いミッドソールを持つスパイク付きの特別なトラックシューズを履いている。
 - b. マラソンランナーは、26マイル以上のレースで生じる衝撃を吸収するために、ミッドソールがかなり厚いシューズを履いている。そして、サイドにスリットが入っていて通気性がよく、超軽量の短いショートパンツを履いている。
 - c. 以前、マリーンズの何人かがシルキーを着てランニングしているのを見たことがある。

d. 手足の毛を剃る選手もいるが、それはより空気抵抗が少なくなるためである。可能な限り軽く、可能な限り速く走れるようにするためだ。

B. 同じ原則が、私たちや私たち自身の信仰のレースにも当てはまる。

1. 持久力をもってレースを走り、無事に完走したいのであれば、可能な限り身軽であることを確認する必要がある。
2. 私たちの足手まといになったり、目の前のレースを走ることから遠ざかったりするような余分な重荷を、私たちが背負っていないことを意味している。
3. さて、著者が重いと罪について語るとき、私たちは著者が何を語っているのかを理解する必要がある。
4. 私たちは罪が何であるか知っている。罪をもてあそんだり、罪に手を出したりすることは、災いのもとだと知っている。
 - a. 罪とは、神に対するあらゆる侮辱である。罪とは、私たちの人生にとって最善であることを見逃してしまうことである。罪とは、間違ったことや悪いことをすることであり、的外れなことである。
 - b. あなたたちは罪が何であるか知っている。少なくとも、聖書には罪として特定されるあらゆる種類の事柄が明確に記されているので、罪が何であるか知っているはずだ。
 - i. パウロはガラテヤの信徒への手紙の中で、私たちのためにいくつか挙げている：姦淫、姦淫、汚淫、淫行、偶像礼拝、妖術、憎しみ、争い、嫉妬、怒りの爆発、利己的な野心、不和、異端、ねたみ、殺人、泥酔、酒宴などである。(ガラ5:19-21)
 - c. ヘブル人への手紙の著者は、罪がいかに私たちに簡単に虜にしまうかを書いている。
 - i. このフレーズには、罪が私たちに簡単に取り囲み、簡単に私たちの邪魔をし、神が私たちに召されたレースで前進することを妨げるという考えが込められている。
 - ii. 罪は私たちの気を簡単にそらし、私たちを取り囲み、私たちにしがみつこうとする。罪は私たちに重荷を負わせるだけでなく、私たちの人生を支配し、神が私たちを呼んでおられる方向に私たちが進まないようにしようとする。
- d. 私たちはそれを取り除く必要がある。罪から自分を解放する必要がある。私たちの人生において、罪が私たちの邪魔になるような場所を持つことは許されない。
 - i. イエスは私たちの罪のために十字架で死なれた。イエスが鎖を断ち切ってくださいなのに、鎖を元に戻そうとしている人たちがいる。
 - ii. 私たちは罪を告白し、罪を悔い改め、人生から完全に断ち切らなければならない。
 - 箴言28:13はこう宣言している。"罪を覆い隠す者は栄えず、告白してそれを捨てる者は憐れみを受ける"。(箴言28:13)

- iii. 私たちは罪を捨てなければならない。預言者イザヤはこう宣言した。"悪しき者はその道を捨てよ、不義なる者はその思いを捨てよ、主のもとに帰れ。(イザ.55:7)"
 - iv. ヨハネはその最初の手紙でこう書いている。もし私たちが自分の罪を告白するならば、神は忠実に正しい方ですから、私たちの罪を赦し、すべての不義から私たちをきよめてくださいます」。(1ヨハネ1:8-9)
 - e. 私たちは、罪に絡め取られたり、震にはめられたり、神に召されたレースで前進することを妨げられたりすることは許されない。
5. しかし、この1節には、著者が私たちに警告しているもう一つの微妙なことがある。私たちが警戒しなければならないのは罪だけでなく、私たちがしがみついているかもしれない余分な重りにも注意しなければならない。
- a. 体重とは何か？ まあ、重さ自体は必ずしも悪いものではない。それ自体は罪ではない。しかし、重みは罪と同じような影響を与えることがある。なぜなら、重みはあなたの歩みを遅らせ、主を追い求める妨げになるからだ。
 - b. いろんな重りを体に括り付けながらレースを走ろうとしている人もいる。自分を苦しめるだけだ。そういうものは捨てるべきだ。それはあなたがあるべき場所に到達する助けにならないのだから、脇に置いておく必要がある。
 - c. 罪と同じように、これらの重りは私たちをも簡単に陥れる。それらは私たちの気をそらす。聖書を読んだり、祈ったり、奉仕したりする時間を作る代わりに、それ自体は必ずしも悪いことではないが、より良いことの邪魔になるような他の活動で人生をいっぱいにしてしまうのだ。
 - d. ほとんどの持久系アスリートは、自分にとって良いものと悪いものを選択をしているわけではないのだ。
 - i. よく訓練されたアスリートの多くは、善悪の判断に苦しんでいるわけではない。何が善か、何が最善かを判断しているのだ。
 - ii. 大きなレースの前に燃料補給を考えると、前夜にジャンクフードやアルコールを大量に食べるか、炭水化物やタンパク質を多く含むバランスの取れた食事と、適切な水分補給のための水分をしっかり摂るかの二者択一ではない。
 - iii. いや、彼らの選択はもっと細かい。体に良いものだけでなく、可能な限り最高のもの、成功するための準備となるものを補給しているのだ。
 - e. 信仰生活において、私たちは善と悪の間だけでなく、何が善で何が最善なのかを選択することを学ぶ必要がある。
 - f. より良いものの邪魔になるのであれば、良いものは良いものではないということを理解しなければならない。

- g. あなたの具体的なウエイトが何であるかはわからないが、今朝、私の話を聞いているのなら、おそらく神が今この瞬間にあなたの心にもたらそうとしていることがいくつかあるだろうと想像する。
 - h. それが何であれ、あなたは喜んでそれらを脇に置く必要がある。そうすれば、忍耐をもって走ることができる。
6. これが、今朝私たち自身が言いたい2つ目のポイントだ。持久力を持って走ることは、学ぶだけでなく、私たちのペースを落とし、効果的にレースを走ることを妨げるだけの**重りや罪から私たち自身を解き放つことでもある**。
- a. もし私たちが持久力をもって走り、長い道のりを走れるようになりたければ、主に完全に従うことを妨げるものを脇に置かなければならない。それらを脇に置くのだ。もし罪があるなら、それを告白し、悔い改めて、完全に捨てなさい。レースを前進させるために、それらを塵の中に置き去りにするのだ。

C. 節の続きで、持久力をもって走ることに関わるもう一つのことをわかる。節を最後まで読んでほしい。

V. ヘブル12:1c; 永続的なものに関わる

A. 本文中の「耐え忍ぶ」という言葉は、ギリシャ語では「ヒュポモーネ」という言葉である。この単語は、何かに耐える能力、状況の中で忍耐と我慢をする能力を語っている。

1. 人々と共に耐えること、つまり、人々と共に長く憐れむことについて語るために使われる別のギリシャ語がある。この特定の単語は、物事や状況を耐え忍び、耐えることを表す。

B. つまり、さまざまな状況や試練に耐えて走るということだ。

C. そして著者は、私たちは目の前に置かれたレースを耐え忍んで走らなければならないと書いている。

1. 私たちにはそれぞれ走るべきレースがある。私たちは皆レースに参加しているが、それぞれが自分のレーンを走っている。私たちのコースは他の人たちのコースとは違うかもしれないし、少し長いかもしれないし、少し難しいかもしれないし、他の人たちよりも障害物が多いかもしれないし、比較的単純なレースかもしれない。

a. 400を走る選手もいれば、1600を走る選手もいる。35メートルおきくらいにハードルを設置して走る選手もいれば、何も設置していない選手もいる。**写真の**障害物競走で走る選手もいるかもしれない。これが何かわかる？ ランナーが飛び越えたりくぐったりするバリアや水ピットがある種目だ。

b. 私たち一人ひとりの前に敷かれたコースはユニークだ。私たちは誰ひとりとしてまったく同じレースを走っているわけではない。確かに共通点はあるし、他の人と同じようなシーズンもあるかもしれないが、それぞれのコースはユニークなものだ。私たちは自分のレースを走ることに集中し、他人や他人のレースに気を取られないようにしなければならない。

2. 神はあなたのために、独自のコースを敷いてくださった。あなた自身の長所も短所も知っていて、あなたが耐えられることも、途中で助けが必要になることも知っている。
3. 私たちは、目の前に置かれたレースを、そのユニークな挑戦と状況のすべてを耐え忍んで走らなければならない。

D. 持久力を持って走るということは、神の栄光のために、あらゆる困難や状況を乗り越えていくことである。

1. どのような状況や試練が私たちの進路上にあろうとも、神がそのひとつひとつを通して私たちを見守ってくださると確信できる。
2. 他人の車線や彼らが置かれた状況に気を取られてはいけない。
 - a. 私たちにはそういう傾向がある。他の人のレースを見て、なぜ彼らは私たちのレースで私たちが受けたような障害や挑戦を受けなかったのだろうと思う。
 - b. ある人は競歩競技をしているように見えるが、私たちは果てしないハードルから抜け出せないでいる。他人のレーンを見始めると、必然的に自分のレーンでのスピードが落ちる。
 - c. 私たちは、神が私たち一人ひとりに与えてくださるものに集中する必要がある。私たちのレースの同じようなセクションを経験した人たちがいるかもしれないし、彼らから学ぶこともできる。しかし、他人のレースに気を取られすぎはいけない。
 - d. 私たちは、目の前に定められたレースを走らなければならない。他人のレーンや他人の境遇から目を離し、神があなたのために持っておられるものに集中しよう。

E. 持久力を持って走ることに関わる最後のことが、2-4節にある。私と一緒にこの2-4節を読み、私たちの研究の最後となる第4のパートを展開していこう。

VI. ヘブル12:2-4; 見ることを伴う

A. これが、持久力をもって走るために最も重要なことだ。私たちはイエスを仰ぐのだ。

1. イエスを見つめることは、私たちのレースで最も重要なことだ。他人から学ぶことはあっても、他人を見たり、自分の重みや罪を見たりしない。私たちは自分のレーン、私たちが直面する障害や課題にさえ目を向けない。私たちはイエスに集中する。私たちはイエスに目を向け、イエスに道をゆだねているのだ。
2. この「見る」という言葉は、ギリシャ語では非常にユニークな言葉である。ギリシャ語には「見る」という言い方がいくつもあるが、ここで使われているこの言葉は、NT全集でも2回しか使われていない。
 - a. 通常の「見る」という単語、ギリシャ語の「blepo」は、聖書の中で135回ほど使われている。しかし、この「見る」を意味する単語「aphorao」[ah-four-ow]は、ヘブル人への手紙とピリピ人への手紙2章に1回だけ使われている。

3. 英語で「looking」と訳されるこの単語は、実際には「遠くのものを見つめる」という意味である。他のものから目をそらし、他のものだけに目を向けることを意味する。

4. この言葉には、他のことに気を取られることがないほど、何かに釘付けになっているという意味が込められている。あなたの目はこの一つのことに釘付けになっている。

5. そしてここで著者は、私たちの目はイエスに向けられるべきだと言う。雑念に目を向けるのではなく、他人に目を向けるのではなく、状況に目を向けるのではなく、重みや罪に目を向けるのではない。レース中、私たちとともにいてくださるだけでなく、ゴールで私たちを待っていてくださるイエスだけに目を向けるのだ。

B. 2-4節で、著者は私たちがイエスに目を留めなければならない理由を3つ挙げている。その第一は、2節の冒頭にある。

C. 節2a; 私たちの信仰の創始者であり、完成者であるからである。

1. イエスは私たちの信仰の創始者であり、完成者である。

- a. ギリシャ語の「author」は「archegos」であり、何かの創始者、創始者、創始者を意味する。この文脈では、イエスは私たちの信仰の創始者であり、信仰の創始者である。
- b. 信仰について語られるとき、それは私たち個人のイエスへの信仰生活の始まりだけでなく、信仰全体を指している。
- c. キリスト教はイエス・キリストに基づいている。聖書はまさに、世界が形成されるはるか以前に始まった、人類に対する神の救済計画の記録なのだ。
- d. 聖書は、イエス・キリストがいかに世の初めから殺された神の小羊であるかを語っている。(黙示録13:8b)
- e. 創世記から黙示録に至るまで、すべては神の御子であり、世の救い主であるイエス・キリストを指し示し、それに基づいている。
- f. 私たちの信仰は、イエス・キリストにのみ基づいており、イエス・キリストによってその基礎が築かれている。イエス・キリストなしにキリスト教の信仰はありえない。
- g. そして、私たち一人ひとりの信仰生活は、イエス・キリストの支配に人生を委ねたときに始まった。私たちが自分の罪を告白し、イエス・キリストの十字架上の完成された御業に信仰を置くときである。
- h. 神が聖霊を遣わされたのは、私たちがイエスに導くためであり、私たちがイエスの必要性と、イエスを信じる信仰によってのみ得られる罪の赦しを悟るためである。つまり、イエスは私たちの信仰と信仰の創始者なのだ。

2. しかし、主は私たちの信仰の完成者でもある。ヨハネの黙示録1:8によれば、彼は初めてであり終わりであり、アルファでありオメガである。(黙示録1:8)。

a. ギリシャ語で「完成者」とは、完成させる者、完成させる者という意味である。イエスは、私たちの信仰を欠点や傷のない完全なものにしてください方である。私たちの信仰

を完成させてください。完成者とは、賞を得るために最終的なゴールに到達する人のことである。イエスは信仰を始められただけでなく

イエス・キリストは信仰を完成させた。私たちの信仰は、イエス・キリストに始まり、イエス・キリストによって終わる。

b. この言葉が使われているのは、聖書の中でこの時だけである。そしてこの言葉は、イエスと私たちの信仰におけるイエスの役割を力強く表している。イエスは、神への信仰によって人生を送ったすべての人の心の中で、信仰の創造者であり、維持者であり、完成者なのである。

c. イエスは、私たちのうちに始められた御業が最後まで成し遂げられるように見守ってください。パウロがフィリピの信徒への手紙1章6節で「私たちのうちに良いわざを始められた方は、イエス・キリストの日までそれを完成させてください。(ピリピ1:6)

3. イエスが私たちの信仰の創造者であり、完成者であるからだ。しかし、イエスを目を向けなければならない理由はそれだけではない。第二の理由は、著者が2節の続きと3節に書いてることと関係がある。

D. 節。2b-3; 彼は忍耐の究極的な模範だからである。

1. **イエスは忍耐の究極の模範**だからだ。著者は、聴衆には忍耐が必要であり、忍耐をもって自分のレースを走らなければならないと語っている。それがどのようなものであるか、イエス・キリストの模範に勝る模範はない。

2. OT聖書のページを振り返ってみると、私たちには学ぶべき多くの証人がいるが、イエス・キリストの模範に匹敵するものはいない。

a. だからこそ、私たちは他人に目を向けず、集中しないのだ。私たちは他人から学ぶことはできるが、イエス・キリストの生涯という完璧な模範に注意を向けるので、他人に目を向けることはない。

b. ご自分の前に置かれた喜びのために、十字架の恥を軽んじて、十字架を耐え忍ばれた。

c. 救いに来られた人々から嘲笑され、鞭で打たれ、叩かれ、唾を吐きかけられ、馬鹿にされ、犯してもいない罪のために十字架につけられた。

d. しかし彼は、敵意、痛み、神の怒りが彼に注がれること、そのすべてを耐え忍んだ。それは、ご自分の前に定められた喜びのためであった。その喜びとは何だったのか?

e. それは二つあったと思う。父の遣わされた仕事をやり遂げる喜びと、すべてが終わったときに天国で主と再会できる喜びだったと思う。

f. しかし、それはあなたや私にも関わっていたのだと思う。私たちは主の前に定められた喜びの一部なのだ。主がご自分のレースを終えられたら、あなたや私のような人々が御父と和解する道が開かれ、私たちも天の神の御座の前に迎えられることを知る喜びである。

g. 3節は、私たちに「主を考えなさい」と勧めている。この「考える」という言葉には、正確に、はっきりと、あるいはもう一度考えてみるという意味が含まれている。

もう一度言う。私たちの魂が疲れ果て、落胆することがないように、私たちは絶えずイエスとその模範に目を向けなければならない。

h. イエスを目を向け、イエスが私たちのために経験されたすべてのこと、イエスの前に置かれた喜びを理解するとき、それは私たちが力づける効果を持つはずだ。ゴールの先に何が待っているのかを理解し、さらに前進するよう私たちに励ましてくれるはずだ。最後には、すべてに価値があるのだ。

3. そこで、私たちが耐えに耐えてレースを走りながら、イエスを見なければならない3つ目の、そして最後の理由に行き着く。それは4節にある。

E. 4節。4; なぜなら、私たちは自分のレースを終えていないからだ。

1. なぜなら、**私たちの競争はまだ終わっていない**からだ。私たちはまだ、罪との戦いにおいて流血に抵抗していない。

2. この文脈では、流血とは命を失うことを指す。命の息がまだ私たちの中に流れているのなら、私たちのレースはまだ終わっていない。

3. イエスは、私たちのうちに始められた御業を完成させるために忠実であられる。そして、もし今朝ここにあなたがまだ息をしているとしたら、それは私たち全員がそうであることを願う。それは、神がまだあなたのために走るべき周回数、乗り越えるべき障害を持っているということだ。あとどれくらい走らなければならないのか? 私にはわからない。しかし、神が知っているという事実で慰められよう。

4. 神はあなたの始まりと終わりを知っている。主は、あなたの前に道を示しておられる。主は最初からあなたとともにおられ、道のりの一歩一歩を共に歩んでこれ、最後にはゴールラインを越えるあなたを見届けるためにそこにおられる。あなたが主を見つめていれば、主はあなたを最後まで見届けてくださる。

VII. 結論

A. この手紙の1世紀の読者にとって、この言葉はなんと大きな励ましであったことだろう。彼らは信仰に苦しんでいた。迫害に疲れ、絶え間ない苦闘に疲れ、タオルを投げ入れて信仰をやめようと考えていた人もいた。

B. しかし、著者は彼らを励ましている。困難や反対を押し切るようにと。あきらめず、耐え忍んで走るのだ。

1. そして、我慢強くレースを走りながら、先人たちのことを考え、彼らの生き方から学ぶことができる。

2. もしそうなら、それらを脇に置き、取り除き、より効果的に走れるようにするのだ。

3. 彼らは、チャレンジや障害、そして神がそれぞれのレースに許し、置かれた状況を押し通すことができる。神がそれらを許されたのは、次に起こることのために彼らを準備させるためであり、主が彼らの中で始められた仕事を終わらせることを、これらの状況が妨げることはない知っているからだ。

4. 信仰の創始者であり、完成者であり、忍耐の完全な模範であるイエスに目を向けることができる。

彼は決してあきらめず、タオルを投げ入れず、レースを完走した。そして神の恵みによって、彼らも同じようにするのだ。

5. この励ましと戒めは、それが最初に書かれた約2000年前と同様に、今日も重要である。願わくば、ヘブル人への手紙12章にあるこれらの言葉が、私たち自身のレースにおいても励ましと慰めになることを願っている。
6. 私たちは皆、信仰というレースをそれぞれのレーンで走っている。主は私たちとともにおられ、天国のゴールで私たちを待っておられるのだから。
7. アーメン? アーメン祈ろう。